

令和5年度

長野県小学生バレーボール連盟

審判研修会

絆

長野県小学生バレーボール連盟

君の笑顔がサービスエース

長野県小学生バレーボール連盟

日時 令和5年4月23日(日)

時間 9:00~12:30

場所 安曇野市穂高総合体育館

長野県小学生バレーボール連盟審判委員会

令和5年度 公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指針

令和5年度審判規則委員会は、以下の5項目を指針とし、各事業を推進する。

- 1 各ブロックと連携して、各種講習会や審判育成事業等を通して、次世代を担う若手審判員の育成を努める。また、さらなるコンプライアンスに関する意識向上を図り、一人ひとりが主体的に取り組めるような指導の方法を確立する。
- 2 レフェリーは、国内競技会及び国際競技会をスムーズに運営するために必要な事前講習会に参加してレフェリーとしての質の向上を図る。審判員の技術のレベルアップがバレーボールの競技力向上になることを忘れてはならない。
- 3 各種別において判定基準の統一を図り、安定した審判技術とメンタル面の強化に努める。また、試合中の選手やチームスタッフの言動に対しては、バレーボールとしてのインテグリティが保てるようにルールを的確に適用し、公平・公正な競技運営を行う。
- 4 選手・指導者を対象に、ルール及び取扱いについての周知・徹底を図り、正しい理解とルール遵守を醸成する。
- 5 子育て世代のレフェリーが活躍できる環境整備を推進する。また、男女共同参画をさらに進めるため、特に各カテゴリー・各都道府県にも女性審判員の活動の支援を推進する。

指導部： 1 A級審判員にカテゴリーを設けた育成体制を推進し、映像等も有効に活用し、より具体的な技術指導を行うことでレベルに応じスキルアップを目指す。

2 審判員の責務として、選手・指導者に対しルールはもとより、ルールの改・修正点や取扱い等を正確に伝達しルールの理解を深め、スムーズな大会運営だけでなく競技力の向上に資する。

3 各ブロックと連携をしながら、A級審判員だけでなく幅広く公認審判員、特に若手審判員の育成事業を実施し、裾野の拡大を図る。

4 子育て世代のレフェリーについては、ライフスタイルに合わせ、安心して審判活動に取り組める環境整備を行うとともに強化事業を推進する。

規則部：見易く正確で分かりやすいルールブックの作成を目指し、4種別のケースブックの編集を行う。6人制とビーチバレーボールはFIVBからの最新情報を収集し、必要に応じて改正・修正を行う。また、9人制についても競技の活性化を図るために、親しみやすいバレーボールを目指し、そのルールの研究を進める。

登録部：JVAメンバー制度(MRS)に従って、公認審判員のMRS登録の増加を目指す。また、早期登録手続きの完了と公認審判員の現状把握を行うために、各ブロック・都道府県との連携を図る。

以上

ルールの改正点・修正点について

2023年度のルールブックの編集にあたり、主な改正点・修正点について報告致します。

6人制改正点・修正点

本競技規則は、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021-2024」としてホームページで公表されたものであり、2023年度はルールの改正はない。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

● 修正点

1. 本文中ならびにスコアシートの「公式記録用紙」を「スコアシート」に表記変更した。
2. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
3. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。また、ケースブックで使用されている用語についての説明も追加した。

『2023年度 レフェリーの目標と6人制の重点指導項目』

JVA大会運営事業本部 審判規則委員会 指導部

1 目 標

- (1) 競技規則の精神を理解し，論理的・実践的な知識を習得する。
- (2) 正しい判定をするための眼を養い，そのための基本的な動きや位置取りを研究し，審判技術の向上に努める。
- (3) 多くの経験を通して，強いメンタルと人間性の醸成に努め，よりよいゲームマネジメントに繋げる。

2 重点指導項目

【ファーストレフェリー】

- (1) 最終判定について
 - ・自ら判定を行う。ホイッスル後に，副審と必要なラインジャッジを確認し，最終判定を出す。
 - ・責任を持って説明ができるよう，最終判定を行う。
- (2) ハンドリング基準について
 - ・基準および判定の仕方についての確認を行い，すべてのレフェリーが統一できるようにする。
 - ・特に，試合を通しては統一して判定できるよう基準をもつ。
- (3) 不法な行為について
 - ・参加競技者の不法な行為に対しては，毅然とした態度で競技規則を適用する。
 - ・最終判定後，セカンドレフェリーと協働し，コートを確認する。
 - ・軽度な不法行為を繰り返すことがないために，早い段階でステージ1を与える。

【セカンドレフェリー】

- (1) 中断の要求およびベンチコントロールについて
 - ・ワンラリー毎にベンチコントロールを行い，不法な行為や正規の中断の要求の有無を確認し，スムーズなゲーム運営を行う。
 - ・選手交代の手続きを十分理解し，複数の交代，両チーム同時のケースについてスムーズに行えるようにする。
- (2) 不法な行為について
 - ・最終判定後，ファーストレフェリーと協働しコートを確認する。特に，ネット際やベンチ等でファーストレフェリーが気づかない不法な行為があればファーストレフェリーに伝える。
- (3) ネット際の判定について
 - ・選手がネット際でボールをプレーする動作中，ボールを追わずにネット際に目を残し判定をする。
 - ・ペネトレーション等
- (4) スコアシートの最終確認及び試合中のスコアラーのコントロール・不測の事態の際の手順の確認

【スコアラー】

サービス順の確認，得点の確認をしながら，正確に記録をつける。疑わしいときは試合を止め，アシスタントスコアラー等に確認をしてミスの無いようにする。

(J V I M Sがある場合は，その情報も参考にする)

【アシスタントスコアラー】

- (1) 不法なりベロリプレイメントがあれば，サービス許可のホイッスルのあと，ただちにブザーを鳴らす。
- (2) スコアボードの得点が正しいか確認する。

2023年度 6人制ルールの取り扱いについて

2023, 2, 11

【1】 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者は、レフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。
- 3 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、ペナルティが科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 5 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

【2】 プレーの動作に関する事項

9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは、身体のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前に、ボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 条⑨)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触している所から離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑰)

9.3.4 ダブルコンタクト：1 人の選手が連続してボールを 2 回ヒットすること、またはボールが 1 人の選手の身体のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑱)

(注)

1 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。

・腕が伴うようなプレーは明らかなヒットではない

2 指先 (the pads of finger and thumb/指及び親指の腹) を用いたティップは許されるが、その際、手を伴ってはいけない。

3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。

(反則となりうるケースの例)

①肘をまげてボールに接触し、その肘を完全に伸ばしてプレーした場合は、ボールを運ぶことになるため、キャッチである。

②肩のラインの後ろでボールに接触しボールを運ぶプレーや、ボールを相手方ブロックに押しつけ方向を変えて押し出すプレーについては、ボールに手を伴って運ぶ時間が長い場合キャッチの反則となる。

4 ブロックにおいても、基準は同様である。

【3】 プレーの構造に関する事項

7.4 ポジション

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは (サーバーを除き) それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

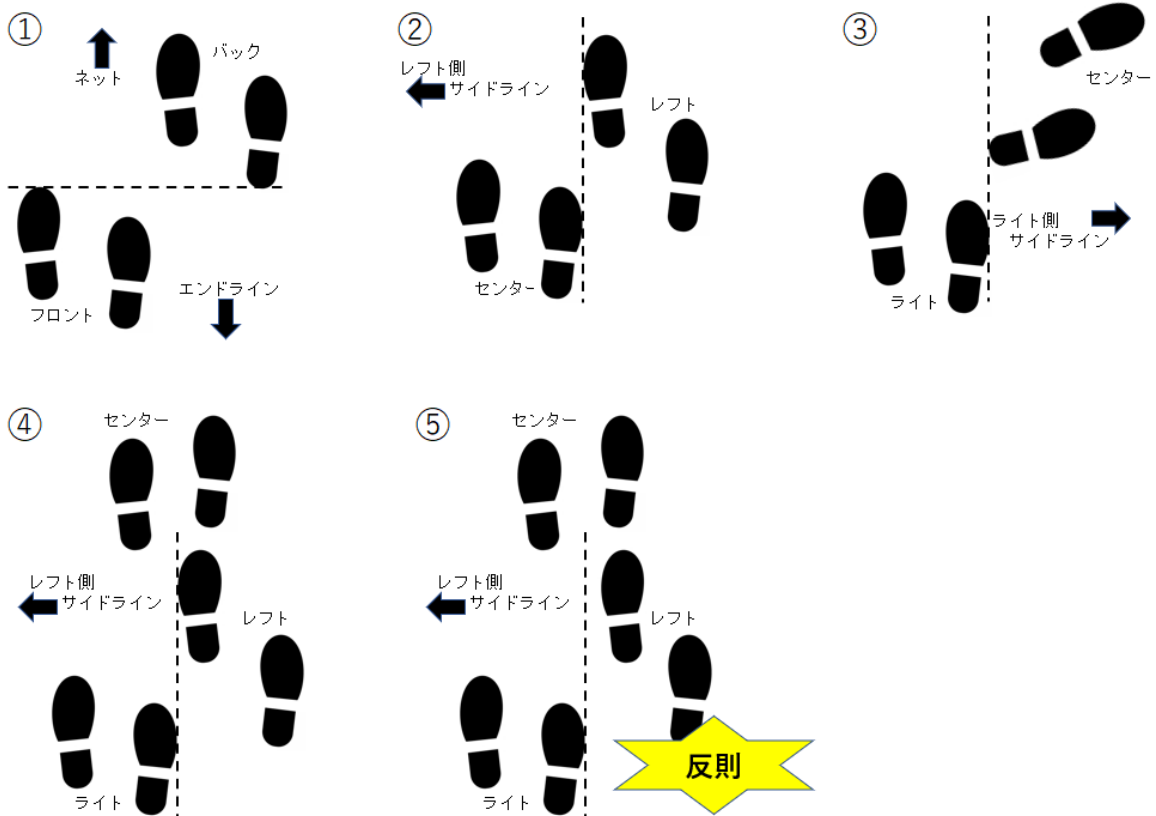
7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置 (最後にコート面に接触していた部分) により決定され、コントロールされる。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターライン遠い位置にいないなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいないなければならない。

(注)

- 1 サービスが打たれた瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。
- 2 バックプレーヤーの両足よりも、対応するフロントプレーヤーの両足が完全に後方に位置しなければ、反則とはならない。
- 3 ライト（レフト）サイドプレーヤーの両足よりも、同じ列のセンタープレーヤーの両足が完全に右（左）側に位置しなければ、反則とはならない。
- 4 したがって、下図①から④はいずれも反則とならない。



7.3 スタートラインアップ

7.3.4 ラインアップシートがセカンドレフェリーまたはスコアラーに一度提出された後は、正規の選手交代をせずに、ラインアップを変更することは認められない。

(注)

両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終えたら、チームはラインアップを訂正することはできない。提出した後でそのセットが始まる前に、スタートラインアップの選手が負傷した場合は、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することが可能である。

なお変更は、ラインアップに記載されている負傷した選手のポジションに限る。

また、この取り扱いは負傷したケースに限る。

【4】 中断に関する事項

15.2 正規の試合中断の連続

15.2.4 中断の要求を拒否され、ディレイワーニングが適用された場合は、同じ中断中に（すなわち、次のラリーが完了する前に）正規の中断の要求をすることはできない。

15.11 不当な要求

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である：

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。（規則 12.3）

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。（規則 5.1.2.3, 5.2.3.3）

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷、病気、退場、または失格の場合を除いて、同じチームが同じ中断中（次のラリーが完了する前）に2回目の選手交代を要求すること。（規則 15.2.2, 15.2.3）

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。（規則 15.1）

15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、スコアシートには記録される。

（規則 16.1）

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合、遅延行為とみなされる。

（規則 16.1.4）

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、ディレイワーニングが適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。(けがや病気による選手交代を除いて)
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、セカンドレフェリーは、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、スコアシートに記録される。
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。セカンドレフェリーは1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、スコアシートに不当な要求として記載する。もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

15.8 退場または失格での選手交代

退場または失格となった選手には、直ちに正規の選手交代が行われなければならない。もしもこれができないときは、チームには例外的な選手交代をする権利がある。これもできない場合は、チームは不完全を宣告される。(規則 6.4.3, 7.3.1, 15.6, 21.3.2, 21.3.3)

(注)

- 1 退場を受けたチームメンバーは、直ちに正規または例外的な選手交代をして、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。退場となった監督は、そのセットでは試合に介入することができず、そのセットが終了するまで競技場フロア内から出なければならない。
- 2 失格となったチームメンバーは、コート上にいる場合は直ちに正規または例外的な選手交代をして、試合終了まで競技場フロア内から出なければならないが、それ以外の処置は受けない。

【5】 チームリーダーに関する事項

5.1 キャプテン

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプ

テンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまで、その責務を担う。

ボールがアウトオブプレーのとき、ゲームキャプテンだけが次の場合、レフェリーへの発言を許可される：

- 5.1.2.1 競技規則の適用や解釈について説明を求める。チームメイトの要求または質問を伝える。もしもゲームキャプテンがファーストレフェリーの説明に納得できない場合は、ファーストレフェリーの決定に対する抗議を選択してもよい。その場合、試合後にスコアシートに正式抗議を記入する権利を確保するため、直ちにファーストレフェリーに申し出る。

(規則 23.2.4)

5.2 監督

- 5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップと交代選手を選び、タイムアウトを要求する。これらの役割に関わるのは、セカンドレフェリーである。

- 5.2.3.4 他のチームメンバー同様に、コート上の選手に指示を与えてもよい。監督は、ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり、遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながら歩きながらでも指示を出すことができる。もしも、ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合、監督は自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

(注)

- 1 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。
- 2 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。
ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

令和5(2023)年度 運営基本方針

I 基本理念

今小学生バレーボールを取り巻く環境は大きく変化をしています。しかし、変わらないのは、ど真ん中にいるのは子どもであることです。日本小学生連盟バレーボール連盟は、バレーボールを通して、ボールをつなぎ、心をつなぐことの大切さをはぐくみ、小学生バレーボールが持つ価値(楽しさ・喜び・つながり等)を高めることで、人間性豊かな選手の育成を目指します。

II 運営基本方針

1. 小学生バレーボール人口拡大のために、次の施策を推進します。
 - ①年齢層に合わせた事業を拡充します
 - ②時代が求める指導者の育成のために、指導者講習会等の拡充を図ります。
 - ③都道府県小連への積極的な支援を行います。
 - ④小学生バレーボールを支えるMRS登録者(指導者・選手)増を目指します
2. 日本小学生バレーボール連盟は、時代のニーズに合わせて組織の強化を進めます。
 - ①法人化に向けて、現在の検討委員会から準備委員会に移行します。
 - ②小学生バレーボールの魅力伝えるコンテンツを活用し、情報発信の強化を進めます。
3. 体罰・暴言・不適切な指導撲滅のための取り組みを強化します。

「共育ブック」の活用や指導者への働きかけなど都道府県小連をはじめJVA・スポーツ協会等の関係諸団体と連携し、その撲滅に向けた取り組みを強化します。
4. 第43回全日本バレーボール小学生大会の安定した大会運営の実現を推進します。

昨年度は3年ぶりの全国大会が開催され、コロナ禍での運営、選手村のない大会として、新たな視点で大会が行われました。第43回大会は、新たな大会運営の定着を進める中で、ホームページ・SNSの活用等情報発信の強化や事務軽減の推進など時代に即した体制強化を図り、みんなで大会を創り上げていきます。

審判委員長会議資料

令和5年度 日本小学生バレーボール連盟 審判委員会 活動方針

1. 小学生に関わる審判員一人ひとりがコンプライアンスへの意識を高め、安全で安心な競技環境の整備に取り組めるよう努める。
2. 6人制競技規則を熟知し、小学生規則への理解を図り、講習会等においては、正しいルールの取り扱いを伝達するとともに安定した判定基準づくりに取り組む。
3. 子育て世代や次世代レフェリーが活躍できる環境の整備に努める。また、協会との連携を図りながら審判資格取得に向けた取り組みを計画的・継続的に推進する。
4. 指導者を対象にルールやその取り扱いについての周知を図り、ルール遵守の精神を醸成する。また、コートオフィシャルの活動を通して選手のルールへの関心を育み、フェアプレーの啓発に繋げていく。
5. グリーンカードの継続的な活用を推進する。
(Thank you プレーヤー・Thank you スタッフ・Thank you フェアプレー)

小学生バレーボール競技規則

競技の特性

本競技規則は、6人制バレーボール国際競技規則に準拠するが、リベロ（規則19）は適用しない。また、次のような特性を持っている。

選手は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に動いてプレーすることができる。

ボールをプレーするときは、ボールが身体の数箇所に連続して接触しても、それが1つの動作中に生じたものであれば許される。

サービスは、それぞれのセットの初めに、チームごとに決められた順序に従って打ち、サービス権が移行しても、位置のローテーションはしなくてもよい。

第1条 施設と用具

- コートは16m×8mの長方形で、センターラインの中心により、8×8mのコートに2等分される。アタックラインの後端がセンターラインの中心から2.7mとなるように引く。サービスゾーンはエンドラインの後方に位置する8mの幅を持つ区域である。
- ネットの高さは2.00mとする。
- ボールは、円周62~64cm、重量200~220gの規格のものを用いる。

（注）

- 小学生バレーボール競技規則ではバックプレーヤーのアタックヒットの反則はないが、下記の理由により、アタックラインは省略しないで引き、フロントゾーンとバックゾーンを区画する必要がある。
 - 選手交代ゾーンを区画するため。（競技規則1.4.3）
 - アタックヒットでの制限（競技規則13.2.4）
相手チームのサービスしたボールがネット上端よりも完全に高くフロントゾーン内にあるときはいかなる選手もアタックヒットを完了することは許されない。
 - アタックヒットの反則（競技規則13.3.4）
相手チームのサービスしたボールがネット上端よりも完全に高くフロントゾーン内にあるときに、選手がアタックヒットを完了したとき。

第2条 選手の番号

番号は、胸部が最小限10cm、背部が最小限15cmの高さのものを用いる。

（注）

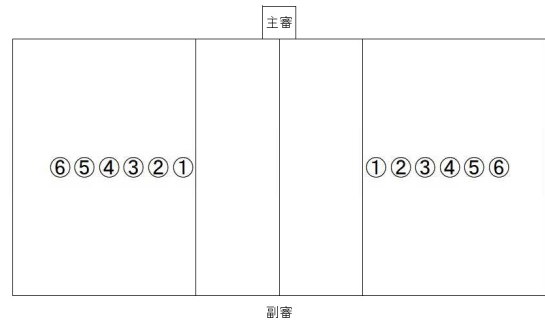
- ユニフォーム（ジャージ（シャツ））には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。ルール上の問題がなくても、識別が困難な色は避けるべきである。
- 裱（縁取り）のみの番号は、認められない。

第3条 チームのスターティングラインアップ

- 1 監督は、各セットの開始前に、サービス順とスターティングラインアップを記入したラインアップシートに署名し、セカンドレフェリーまたはスコアラーに提出する。
- 2 サービス順は、選手の位置に関係なく決めることができるが、そのセットを通して変更することはできない。
- 3 交代選手のサービス順は、被交代選手の順位とする。

(注)

- 1 セット開始時、セカンドレフェリーはスターティングラインアップの選手をアタックラインの中央からエンドラインに向かって垂直に、記録席側を向かせてサービス順に整列させる。



第4条 試合の進行

- 1 試合は、サービス権を得たチームの最初のサーバーによって開始される。
- 2 サーバーによってボールが打たれた瞬間には、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれのコート内にいなければならない。
- 3 レシービングチームがラリーに勝ち、サービス権を得た場合は、サービス順に従い、サービスを行う。
- 4 サービス順の誤りは反則となり、その間違いは直ちに訂正される。
- 5 監督は、ラリー中、ベンチに座っていなければならない。
- 6 選手の健康と安全に配慮し、テクニカルタイムアウトを用いる。第1セットおよび第2セットでは、リードするチームが11点目に達したとき、第3セットでは、リードするチームが8点目に達したときは、30秒間のテクニカルタイムアウトが自動的に適用される。
- 7 第3セットでは、リードするチームが8点に達したときは、チームは直ちにコートチェンジをする。

(注)

- 1 ルールブックに明記されてはいないが、小学生バレーボール競技規則の取り扱いとして、小学生の試合ではサービス順の誤りが起こらないようにしている。
本来のサーバーではない選手がサービスを打つ準備をしているときは、スコアラーからセカンドレフェリーを通じてサーバーの順番が誤っていることをチームに知らせ正しい順番のサーバーに訂正してサービスを打たせる。ただし、この手続きは誤ったサーバーがサービスを打つ前にしか適用されない。実際にサービスを打ってしまった場合は、6人制競技規則と同様に、サービスの反則となる。サービスを打たせるところからやり直させることはない。
- 2 監督がコートもしくはウォームアップエリアに近づく主たる目的は、選手に対して必要な指示を与えるためであり、みだりに監督が立ち上がったりする行為を許容するものではない。過度に目的から逸脱した行為に対しては、競技規則(21 不法な行為とその罰則)によって制裁が科される。監督を含めチーム役員が自然発生的に喜びを表す表現として偶発的に立ち上がったりする行為は許容範囲である。しかし監督以外のチーム役員や選手が毎回のように立ち上がったり、あるいはベンチから数歩前に出たりする行為はルール違反である。また、監督がコート上の選手とハイタッチをしたり、跳んだり跳ねたり、相手を威嚇したりする行為などもルール違反となる。
- 3 第3セットのテクニカルタイムアウトは、コートチェンジでファーストレフェリー側の支柱外側を回ってきたチームの最後尾の選手がセカンドレフェリー側のサイドラインを通過した時点から30秒を計時する。

第5条 得点を得て、セット・試合に勝つこと

1 セットは（第3セットを除き）、最低2点をリードし、先に21点を得たチームが取る。
20-20の同点になった場合は、（22-20、23-21のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。

セットカウントが1-1のタイになった場合には、第3セットは、最低2点をリードし、15点になるまで続けられる。

2 試合は、2セットを取ったチームがその試合の勝者となる。

（注）

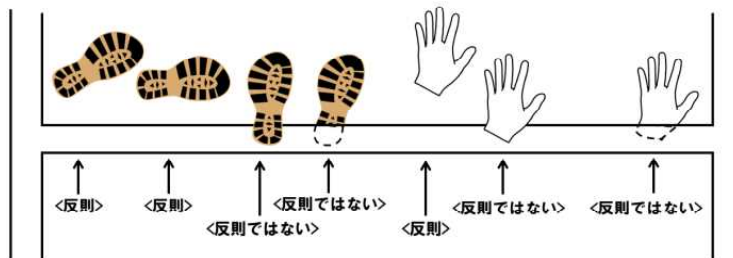
1 第3セットは、14-14の同点になった場合は、（17-15、18-16のように）2点のリードが得られるまでプレーは続く。

第6条 ネット付近の選手

片方の足（両足）または片方の手（両手）がセンターラインを超えて相手コートに触れても、侵入している片方の足（両足）または片方の手（両手）の一部がセンターラインに接しているかその真上に残っていれば許される。他のいかなる身体の部分も相手コートに触れることは許されない。

（注）

1 この場合の「足」はくるぶしより先、「手」は手首より先をひとつのかたまりと見なして、その一部分でもセンターライン上（触れていなくてもよい）に残っていれば反則とならない。（相手コート側）



※点線はラインに触れていないことを示し、センターライン上の空間にある。

2 相手コートに触れていなければ相手コート側空間に出ていても反則にならないが、相手選手に触れるなど相手のプレーを妨害したと見なした場合は、インターフェアの反則を適用する。

第7条 選手交代の制限

各チームは、1セットにつき12回までの選手交代が認められる。

（注）

1 セカンドレフェリーは記録を確認し、11回目と12回目の選手交代をファーストレフェリーおよび監督に通告する。

2 選手交代の手続きは、一般の試合と同様の取り扱いで行われる。ただし、小学生の特性なども考慮し、レフェリーはチームの意向になるべく沿うようにする。（選手が誰と交代するのか理解していない場合はセカンドレフェリーが監督に尋ねたり選手交代ゾーンの手前で選手が立ち止まったらゾーンに入るように促したりするなど）

第8条 記録の方法

試合は、スコアシート記入法によって記録されるが、それぞれのセットのレシーブチームも、スコアシートの「サービスのチェック欄」は、ローマ数字のIの1欄から記入される。

小学生バレーボール競技規則における テクニカルタイムアウトの取り扱いについて

- ① 日本小学生バレーボール連盟及び各都道府県小学生連盟の関わる（主催，共催，主管等）小学生のバレーボール大会において、「テクニカルタイムアウト（以下TT0）」は、選手及びスタッフ（小学生）の健康管理のためのタイムアウトである。
- ② TT0が開始されたら，選手はベンチの外側の端に位置する（この時選手はベンチに着席してもよい）。ベンチスタッフ（大人）は選手の健康観察を行い，不調が疑われる選手には直ちに対応する。
※小学生の発達段階の特性として，自身の体調の変化に気付きにくいことや，体調が悪くなっても自分から言い出すことが難しいことなどが考えられる。そのため，ベンチスタッフ（大人）が積極的に選手の健康管理に気を配る必要がある。
※レフェリーは必要に応じて選手の体調についてベンチスタッフ（大人）に質問することができ，不調が疑われる選手への対応を指示することができる。レフェリーから選手の体調について質問があった場合は，正確に回答できるように準備しておく。
- ③ ベンチスタッフ（大人）は，選手及びスタッフ（小学生）全員が給水できるように準備をする。
※給水の準備が必要な期間はWBGTなどの諸条件を考慮し，大会本部が決定してもよいものとする。また，給水の準備は必須であるが，給水を行うか否かの判断は選手本人の意思による。
※ベンチにいる選手に給水やタオル等の準備を手伝わしてもよいが，これらの選手も給水できる状態にしなければならない。
- ④ ベンチスタッフ（大人）が選手に話しかけるときは，ベンチスタッフ自身が規定の位置に移動する。
- ⑤ TT0中は，ベンチスタッフ（大人）がフロアモッピングを行うことができる。

2022年2月27日

都道府県協会・全国連盟
競技委員長 各位

公益財団法人日本バレーボール協会
業務執行理事・事務局長代行 村上 成司

ウェア・シューズ・サポーター公認制度について

平素より、バレーボールの普及・発展にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

さて、JVA 主催大会競技要項(ユニフォーム規程)に基づき、2009年よりご案内してまいりました標記「ウェア・シューズ・サポーター公認制度」ですが、おかげさまで各大会において定着し、円滑に運用されております。(シューズ、サポーターについては、ユニフォーム規程には含まれておりませんが、公認・推薦制度に基づいて実施されるものをご理解ください。)

2022年度におきましても、引き続き、趣旨をご理解いただき下記の要領にてご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

記

- (1) 大会エントリーの際に、チームより別紙「ユニフォーム・シューズ・サポーター確認書」もあわせて提出していただく。
- (2) 【ユニフォーム】公認企業以外のものを使用する場合は、各チームが予めロゴを露出させないように処理をする。
- (3) 【シューズ】公認企業以外のものを使用する場合は、各チームが予めそのラインの一部を隠すなどの処理をする。
- (4) 【サポーター】公認企業以外のものを使用する場合は、各チームが予めロゴを露出させないように処理をする。
- (5) ベンチに入るチーム役員についても同様の取扱いとする。
- (6) プロトコールからゲーム終了までの取扱いとするが、試合後の公式行事(表彰式や記者会見を開催する場合は含むものとする)。
- (7) 対象は JVA 主催国内競技会(全国大会)とするが、都道府県予選会も可能な限りこれに準じるものとする。
- (8) 当日の著しい違反の防止のため、マスキングテープを用意し、実行委員長の判断のもとに処理をする。
- (9) Vリーグ機構所属チームの JVA 主催国内競技会における適用は別途定める。

以上

【添付資料】

1. 「ウェア・シューズ・サポーター確認書」
2. 当年度公認企業ロゴ一覧

【ウェア】

アシックス	
デサント	
ミズノ	
ファイテン	
ドーム (アンダーアーマー)	
トンボ (ヴィクトリー)	
フラスコ100cc (ミレグラ)	
ファースト フロンティア (ALST)	
アクラム	
トレス	
ボルトン	
スポルディング ジャパン	
ヘインズブランズ ジャパン (チャンピオン)	
エスエスケイ (ヒュンメル)	

【サポーター】

アシックス	
デサント	
ミズノ	
D&M	
日本シグマックス (ザムスト)	
アルペン	
ファイテン	

【シューズ】

アシックス	
デサント	
ミズノ	

■プレーヤーの皆さまへ■

JVAが主催する全国大会および全国規模の大会においては、プロトコール(コート入場)からゲーム終了(コート退場)まで、公認企業の製品のマニファクチャーロゴ(シューズは企業を連想させるライン等)の露出を許可しております。

公認企業以外のマニファクチャーロゴの露出は禁止しておりますので、ご理解の程、お願いいたします。

ユニフォーム作製にあたって

日本小学生バレーボール連盟

はじめに

公益財団法人日本バレーボール協会（以下 JVA）主催の大会に参加するチームは JVA が定めるユニフォーム規定及び日本小学生バレーボール連盟のユニフォームに関する基本的な考え方を遵守しなければなりません。各チームがその内容を熟知した上でユニフォームを作製できるように本文書を作成いたしました。

1. ユニフォーム規程について

資料「公益財団法人 日本バレーボール協会 競技要項 P68～70」参照

特に、以下の点について再確認をし、規定に合わないユニフォームは、大会（JVA 主催大会）に向けて手直しや再作製をする必要があります。

3. 選手番号

(1)ユニフォーム(ジャージ(シャツ))には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。

(例)



5. チームネーム

(1)ジャージ(シャツ)の胸部もしくは背部に、JVA-MRS に届け出たチームネームまたはそれを特定できる略称のいずれかを付けなければならない。サイズは規定しない。また、チームのシンボルマーク(社章・校章・略号)も付けてもよい。

(2)ジャージ(シャツ)の袖に(袖が無い場合には背面襟下に)所属する都道府県名を付けてもよい。なお、都道府県名の大きさはチーム名よりも小さいこと(高さが低いこと)

番号が明確に表示されていない例



番号が枠だけ



柄と番号が同化している





地の色と対照的ではない



銀色で光って見えづらい

2. ウェア・シューズ・サポーター公認制度について

毎年度ごと、JVA 公認企業ロゴ一覧が示されますので、ご確認ください。

3. 日本小学生バレーボール連盟としての基本的な考え

(1) ユニフォームのデザインについて

ノースリーブのユニフォームに関して、肌の露出部分を多くすることで擦り傷等のけがや盗撮のリスクがあることから着用は好ましくない。

許容されるデザイン（フレンチリーブ、キャプスリーブ）



(2) シャツのインとアウトについて

見た目も良くなく、パフォーマンスにも影響することが予想されることや肌の露出の点で怪我や盗撮のリスクもあることから**シャツを入れるよう指導する**。

ただし、夏の大会で空調設備のない会場で開催する場合や会場内の熱中症指数が上がっている場合など、状況によってはシャツを出して着用することを認める。その判断は、各大会ごと主催（主管）者によって行い、大会要項または代表者会議にて示す。

ベンチスタッフについては、選手と同様にシャツを入れるのが好ましいが、チームの判断に委ね、指導はしない。

I-5 国内競技大会参加チームのユニフォームについて

ユニフォーム規程

2019年3月
国内競技委員会

1. 目的

- (1) 公益財団法人日本バレーボール協会(以下 JVA)が主催する国内競技大会に参加するチームのユニフォームや役員の服装についてその詳細を定めることを目的とする。
- (2) Vリーグ参加チームのユニフォームについては別に定める。また、JVA と他の団体が共催する大会で別に定められた規程がある場合は、その規程に従う。

2. ユニフォーム

(1) ユニホーム

- ① ユニフォームとは、ジャージ(シャツ)、ショーツを指す。6人制においてはソックスもユニホームに含まれる。
- ② ユニフォームは配色やデザインが統一されていなければならない。(リベロプレーヤーを除く)
- ③ チームは、カラーの異なった2種類のユニフォーム(ジャージ(シャツ)・ショーツ)を用意することが望ましい。
- ④ ユニフォームのメインカラー(主たる色)は、概ね2/3以上を占めていることとする。
- ⑤ リベロプレーヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のユニフォーム(少なくともジャージ(シャツ)だけは)を着用しなければならない。(明瞭に区別できる色・デザインであること。)

(2) ジャージ(シャツ)・ショーツ

- ① ジャージ(シャツ)およびショーツは色、デザインが統一されていること。
- ② ジャージ(シャツ)は半袖、長袖、ノースリーブが混在していてもよい。

(3) ソックス

- ① 色および長さが統一していること。

3. 選手番号

- (1) ユニフォーム(ジャージ(シャツ))には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければならない。
- (2) 選手番号は6人制においては1～20番、9人制においては1～18番までとする。ただし、やむを得ない場合は1～99番まで認める。
- (3) 選手番号のサイズは、次の通りとする。

6・9人制とも	高校生以上		小・中学生	
	高さ	字幅	高さ	字幅
①シャツ胸部・中央	15cm以上	2cm以上	10cm以上	2cm以上
②シャツ背部・中央	20cm以上		15cm以上	

- (4) ショーツ前面下に、高さ4～6cm、字幅1cm以上の選手番号を付けてもよいが、全員がそろっていないなければならない。

4. チームキャプテン

- (1) チームキャプテンは、胸のナンバーの下に、長さ8cm、幅2cmのマークを、ジャージ(シャツ)と異なった色で付けていなければならない。

5. チームネーム

- (1) ジャージ(シャツ)の胸部もしくは背部に、JVA-MRSに届け出たチームネームまたはそれを特定できる略称のいずれかを付けなければならない。サイズは規定しない。また、チームのシンボルマーク(社章・校章・略号)も付けてもよい。
- (2) ジャージ(シャツ)の袖に(袖が無い場合には背面襟下に)所属する都道府県名を付けてもよい。なお、都道府県名の大きさはチーム名よりも小さいこと。(高さが低いこと)

6. 選手名 ※小学生連盟では付けない

- (1) ジャージ(シャツ)背部の上部中央に、着用する選手の選手名または通称を表示してもよい。(選手名の表示を認めていない種別を除く)
 - ① 選手名を表示する場合、出場する選手全員が表示することら
 - ② 選手名のサイズは、高さ6～8cmとする。
 - ③ 文字は、アルファベット横書きにより哀話するものとする。
 - ④ 表記は直線状または、肩の曲線に合わせたゆるやかな曲線状とする。

7. マニファクチャーロゴ

- (1) ユニフォームには、JVAが公認しているメーカーに限り、最大5×4cmまたは20cm²のマニファクチャーロゴをジャージ(シャツ)・ショーツにそれぞれ一箇所だけ付けることが許される。(ソックスは、左右各々の、内側と外側に付けてもよい)

8. スポンサーロゴ及びユニフォーム広告 ※小学生連盟では付けない

- (1) ユニフォームにチームスポンサー名または商品名・商標・ロゴマーク及びユニフォーム広告を付けることができる。ただし、別途定める「ユニフォーム広告に関する規程」に従うこととする。
- (2) 試合会場(体育館等)の規程により、広告掲載料が発生した場合は、当該チームがその実費を支払うものとする。

9. その他

- (1) ユニフォームには、上語3～8以外のものの表示認められない。

10. トレーニングウェア

- (1) トレーニングウェアは全員が統一されていることが望ましい。
- (2) トレーニングウェアにはチームネーム、選手名、選手番号を付けることができる。
- (3) トレーニングウェアには最大5×4cmまたは20cm²のマニファクチャーロゴを付けることができる。
- (4) スポンサー広告については、上記8と同様な扱いとする。

11. アンダーウェア等について

- (1) アンダーウェアはユニフォームの袖や裾、首等からはみ出してはならない。ただし、プレーの動作によってユニフォームの下から見えてしまうことは故意に見せるものでない限り制限されない。
- (2) 医療を目的としたサポーター類は、プレー上危険がある場合や、プレーに有利に働く場合を除いて、規制されない。
- (3) 明らかに色が違う腰に帯状にまくサポーター、コルセット類はユニフォームの下に着用しなければならない。

12. ペンチスタッフの服装

- (1) ペンチスタッフはジャケットを着用するか、スタッフで統一された服装でなければならない。
- (2) 部長や監督がジャケットを着用し、その他のスタッフが統一された服装であれば許可される。
- (3) 統一された服装であっても、タンクトップのような形状のシャツ類、短パン、ハーフパンツは許可されない。
- (4) ペンチスタッフの着用する服装には最大5×4cmまたは20cm²のマニファクチャーロゴを付けることができる。
- (5) スポンサー広告については、上記8と同様な扱いとする。

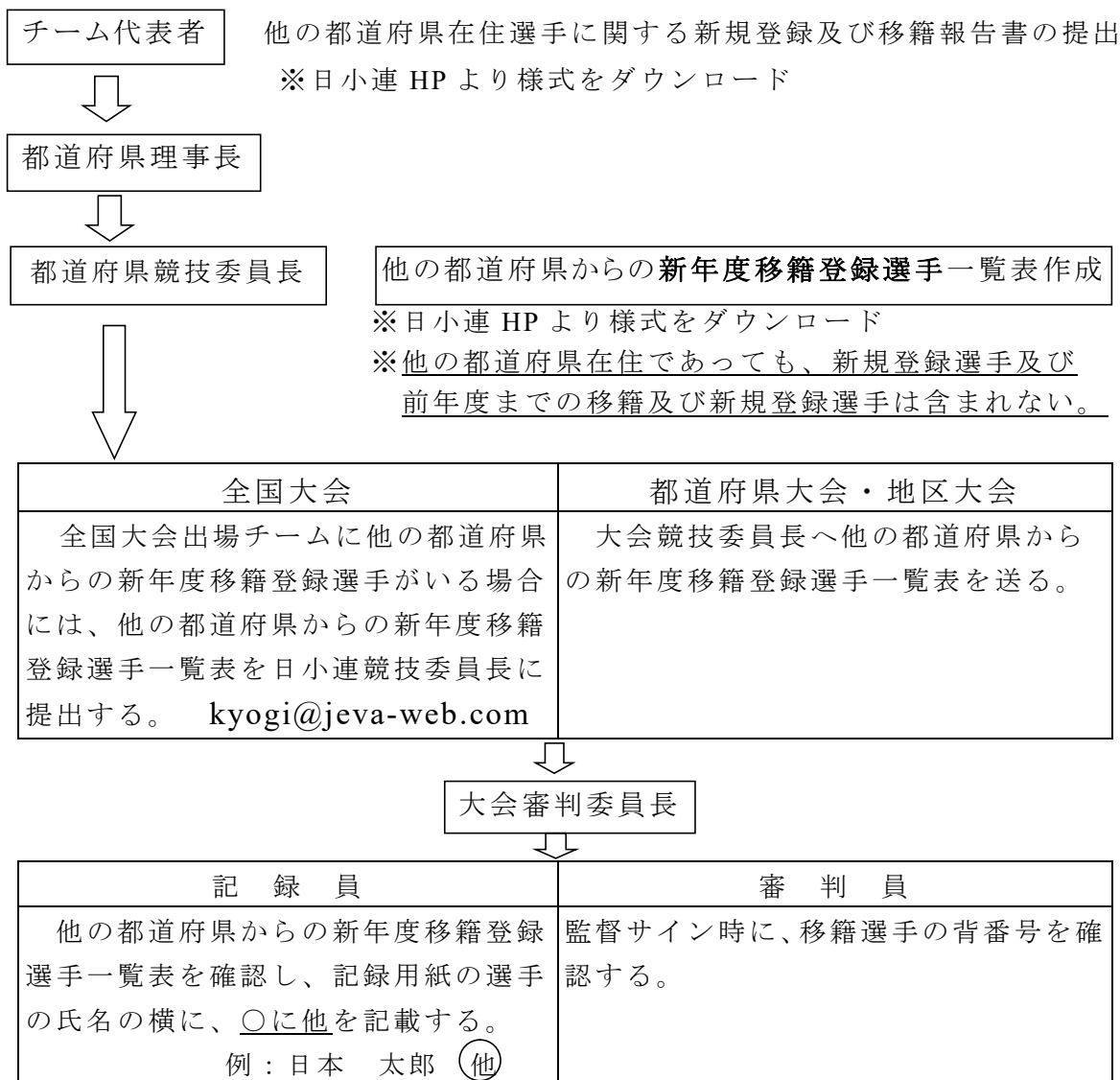
以上

この規程は2019年3月31日より実施する。

他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について

日本小学生バレーボール連盟

全日本バレーボール小学生大会における、他の都道府県からの新年度移籍登録選手の確認方法を以下の通りとしましたので、運用をよろしく申し上げます。なお、新年度とは3月のJVA-MRS登録が始まる日からを指し、前年度とは、2月のJVA-MRS登録が締め切られる日までを指す。



※記録用紙のスターティングプレイヤー番号、選手交代番号の記載欄にレ印を付けて確認してもよい。

〈参考〉

大会要項 チーム編成

他都道府県在住であって、新年度の登録の際に移籍登録した選手はベンチには3分の1以内とする。また、コート上には2名以内とする。監督は試合時に、他都道府県からの移籍登録選手の番号を審判員と確認しておくこと。

大会名 第43回 全日本バレーボール小学生大会 長野県大会
 開催地 長野県 安曇野市
 試合番号 A-1
 開催日 2020 年
 試合設定時間
 会場名 穂高総合体育館
 対戦カード AorB
 対戦チーム A (赤色) 対 B (緑色)

長野県小学生バレーボール連盟

開始 13:05 チーム 赤色 (A) 対 緑色 (B) 終了 13:26

サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点	サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点
先発メンバー	4	1	3	2	5	6	27	先発メンバー	1	2	3	4	5	6	27
番号								番号							
得点								得点							
1回目	4	7	9	11	12	14	15	1回目	5	6	6	2	6	2	6
2回目	18	19	21	3	7	3	7	2回目	2	4	9	15	19	19	6
3回目	4	8	4	8	4	8	4	3回目	7	3	7	3	7	3	7
4回目	8	4	8	4	8	4	8	4回目	8	4	8	4	8	4	8

【特記事項】
 不当な要求したチームにをす。
 遅延行為に対する警告 (Aチームの1セット目、8:5のとき)
 遅延行為に対する罰則 (Aチームの1セット目、11:9のとき)

開始 13:29 チーム 緑色 (B) 対 赤色 (A) 終了 13:49

サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点	サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点
先発メンバー	1	2	3	4	5	6	27	先発メンバー	4	1	3	2	5	6	27
番号								番号							
得点			8:11					得点					16:18		
1回目	2	4	9	15	19	19	6	1回目	5	6	6	2	6	2	6
2回目	21	6	2	6	2	6	2	2回目	2	4	9	15	19	19	6
3回目	7	3	7	3	7	3	7	3回目	7	3	7	3	7	3	7
4回目	8	4	8	4	8	4	8	4回目	8	4	8	4	8	4	8

【特記事項】
 前セットの試合終了時刻から3分後の時刻を記入する。
 No3の選手が再びコートに戻った場合は、下の数字を○で囲む(○で囲まれた選手は、このセットで再出場出来ないの意味)
 相手のレッドカードによる罰則で得た得点は斜線を引き、○で囲む。(6点目はタッチネットによる得点、7点目は、レッドカードによる得点)
 要求したチームの得点を左側に記入する。
 この数字は×で消さない

開始 13:52 チーム 緑色 (B) 対 赤色 (A) 終了 14:08

サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点	サービス順	I	II	III	IV	V	VI	得点
先発メンバー	1	2	3	4	5	6	27	先発メンバー	4	1	3	2	5	6	27
番号								番号							
得点		1:1						得点					9:6		
1回目	1	2	5	6	2	6	2	1回目	5	6	6	2	6	2	6
2回目	2	6	2	6	2	6	2	2回目	2	6	2	6	2	6	2
3回目	5	5					5	3回目	5	5					5
4回目								4回目							

【特記事項】
 この部分は転記しない。
 サービスが行っていない場合で最終得点を得た場合はレ点を入れずにゲーム最終得点を記入して○で囲む。
 コートチェンジ時の得点に縦線を引き、その下にアンダーラインを引く
 コートチェンジ前の試合の中断(タイムアウト、選手交代)は同じように、左側から転記する

【特記事項】

不当な要求したチームにをす。
 遅延行為に対する警告 (Aチームの1セット目、8:5のとき)
 遅延行為に対する罰則 (Aチームの1セット目、11:9のとき)

審判員とサイン欄

審判	氏名	都道府県	サイン
主審	竹	長野県	試合前に記入
副審	南	長野県	試合後に記入
記録員	田	長野県	

セット勝利チームは1を、セットを失ったチームは0を記入する。

チーム	赤色 (A)	緑色 (B)	チーム	赤色 (A)	緑色 (B)
タイムアウト	0	0	勝	0	0
交代回数	1	1	得点	21	18
	0	2	セット (時間)	I (21)	18
	1	3	得点	19	21
	0	2	勝	1	2
	1	3	得点	15	12
	1	3	セット合計 (57)	51	44

試合開始時刻 13 h 05 min
 試合終了時刻 14 h 08 min
 所要時間 1 h 03 min

勝利チーム 赤色 2 : 1